

学部・講義：幼児教育（保育）の道を、自ら学び、考えながら 進んでいけるために

幼児教育・青井倫子

1. 授業の概要

本科目は、幼年教育の専修科目（1回生対象）であるとともに、保育士コースの必修科目でもあり、(1)幼稚園・保育所の制度・内容・歴史、(2)子ども観・発達観・保育観、(3)環境を通しての教育、(4)幼児期にふさわしい生活、(5)幼児理解のあり方、などに関する基礎的知識の習得をめざすものである。

2. 受講学生

1回生：12名

幼年教育サブコース 6名
小学校サブコース 4名
中等教育コース 2名

3. 授業の工夫

- (1) ノートテイクに労を費やさず、授業内容を理解することに集中できるよう、授業は記入式のプリントに従ってすすめた。
- (2) 学生が自らの意見や考えを持ち、それと照らし合わせながら理解を深めていけるよう（一方的な伝達にならないよう）、発問-応答のやりとりを多く取り入れた。

4. 授業評価の方法と結果

15回目授業（試験）日にアンケート（5段階評定と自由記述）を配付し、記入させた。

- 5：たいへんそう思う（非常によい）
4：ややそう思う（よい）
3：どちらともいえない（ふつう）
2：あまりそう思わない（あまりよくない）
1：まったくそう思わない（よくない）

テーマ・目的は明確だったか 4.9
話し方は明確・聞き取りやすかったか 5.0
重要なことを強調したか 4.9

プリントに沿った授業は理解を助けたか 4.8
授業への熱意・工夫が感じられたか 5.0
課題は有益なものだったか 4.8
考えが培われたり得るものがあったか 4.8
学問をする雰囲気は保たれていたか 4.8
教職に就くうえで有益だったか 5.0

5. 地域社会を核とした教育と研究のつながり

本授業の前半では、保育・幼児教育の制度・内容・歴史を扱っている。とりわけ平成27年からスタートした「子ども・子育て支援新制度」については詳しく解説をしている。私が愛媛県や県下市町の新制度の策定や実施に携わっているため、県下の保育政策・制度の現状や課題、最新の動向についても触れている。アンケートの自由記述には、「歴史や制度から保育観まで幅広く、また一つの知識や歴史上の事柄について詳しく発展させて話して頂けた」などの記述が見られた。また、愛媛県や県下市町の保育動向や、特別支援巡回指導員としての実践経験を踏まえて語ることは、将来の職業生活を具体的に思い浮かべながら学ぶことにつながるようで、「幼児と接した経験を交えながら授業内容を扱っていただけだったので、非常にわかりやすく、さらに興味が湧いた」「先生が接してきた子どもたちとの話を聞いて、実際に保育者として働く時に使える知識をたくさん得た」「保育者なることがとても不安だったが、少し不安が和らいだ」「授業で教わったことを忘れず、実際に活かせるようにして行きたい」などの記述も見られた。

「自分の将来に対してのモチベーションが上がる講義でした」「学ぶ楽しさを知れて、とても嬉しかった」など、主体的に学ぼうとする姿勢の高まりが見られた。